
祈り

S T A R ジョーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祈り

【Zコード】

N3749C

【作者名】

STAR ジョーカー

【あらすじ】

惑星調査隊が見た物は・・・一心に踊り続ける謎の集団

「祈り」

俺は惑星調査隊の一員として

ある惑星の遺物を調査している

朽ち果てた建造物の前では、相変わらず、祭りが続いていた。

5～6人のグループに分かれ、同じ踊りを繰り返し踊っている。

傍らには、無数の骸骨が散乱している。

彼らはそんなことなど気にするつもりもなく・・・

一心におどつづけている。

我々の接近に対しても何の興味も示さないほど、熱中しているのか？

俺は通信機のスイッチを入れた

「ハハハ、調査隊より母船へ、上空より発見された集団は、わざわざの予想どおり、

反応なく、建造物もしらべましたが、特に問題はありません。

何かの宗教儀式らしいですが、くわしいことは不明です。」

母船からの返事が来た

「了解、詳しいことは、学術調査船にまかせるとして、帰還せよ。」

我々はその場を離れシャトルに乗り込んだ。

三角形のシャトルの小窓から、そう遠くない場所に、やや疎びの集団が見える

あの建造物は、機能しなくなつてから、おそらく一万年は経つているだろ？

崩壊する前のこの惑星の、文明とはどんなものだったのか？

俺は思いをはせた。

風化した骸骨は何を意味しているのだろうか？

シャトルのエンジンはつなりをあげ、上昇を開始した。

しだいにちいさくなる、あの建造物の前では、相変わらず、踊りが続いていた。

彼らの金属質の頭にはめ込まれた、無限LEDの光が、時折弱く光りながら

しだいに見えなくなつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3749c/>

祈り

2010年11月17日14時36分発行